

## 新規受験団体 第116回銀行業務検定試験「財務4級」団体賞受賞

株式会社トヨタレンタリース愛知  
現場の営業マンに「財務諸表を見る力」の向上を

今回は、2010年6月6日に実施しました第116回銀行業務検定試験「財務4級」において、新規に団体受験としてお申込みいただき、団体賞を受賞されました株式会社トヨタレンタリース愛知へお伺いしました。

株式会社トヨタレンタリース愛知は、名古屋市を中心として愛知県内に、車のリース業店舗12カ所、レンタル業店舗65カ所を設置し営業展開をしています。

今回、快く取材に応じてくださいましたのは、債権与信管理部部長の入山高弘さんとプロジェクト責任者である木下克美さんです。お二人は、「財務4級」において、98点という高得点で個人賞を受賞されました。

## ●団体賞受賞について

今回団体賞を受賞されたことについてお伺いしましたところ、「団体受験を決めた当初において、全体で70%の合格者が出ることを目標として設定していましたが、財務知識が必要とされなかった部署の社員も受験するため実際は厳しいだろうと予想していました。しかし、結果として72%が合格となり、大変嬉しく思っています」とお話をされました。

## ●新しい与信審査体制への準備

債権与信管理部が新設されたのは、昨年4月のことです。これまでは、リース契約においては、外部の調査機関のデータをもとに与信判断を行ってきました。しかし、サブプライム問題やリーマンショックによる取引先の倒産等に見舞われるにつき、これまでに培った与信判断能力に加え、より一層財務諸表を見る力の向上を図ることで、体制の見直しを図ろうという認識が生まれました。そこで同部の発足とともに、第一線で働く現場の営業マンにおいても、財務分析の知識レベルを今一度確認し、さらなる知識のブラッシュアップと向上を図り、今年の10月からは新しい与信審査のもとで、新規契約の締結を行っていくことの方針を決めました。今後、契約締結の決定において、与信額の一定金額内については現場の営業マネージャーも契約の決定権を持つこととし、それ以上の金額については、営業本部の決定を得るという体制を整えることとなります。

## ●検定試験の導入について

財務の学習を始めるにあたっては、教材を探すために、金融関係者の方々から様々な関連資料等を集めたそうです。そのなかで教材テキストの内容および導入時期の面で、最も適していたのが銀行業務検定協会の検定試験と、それに連動した経済法令研究会の通信講座とのことでした。

早速、経済法令研究会の営業マンにご相談いただき、今年6月の「財務4級」受験、およびそのための学習として「財務入門コース」を昨年12月から受講するという計画を立てられたとのこと。単に試験合格を目標にするのであれば、問題解説集を中心とした学習のほうが効率的ともいえます。しかし、現場で営業マンが財務諸表を見る力を向上させることが目的であり、これまでの財務知識を改めて体系立てて整理することで、より一層実務に活かせられること、また財務分野に携わってこなかった部署の社員の方でも基礎から学習できる等の理由から、通信講座による学習を選択されたとのこと。

受験および受講されたのは、営業スタッフ80名を中心に、マネージャー・管理職等を含め、111名で、リース業に携わっていない職員の方も含まれています。このなかで72%の方が合格されました。

## ●学習方法について

社員の方のなかには、新入職員の方を中心に、財務を学び始めたばかりの方もいらっしゃることを考慮し、債権与信管理部としては、社員の財務知識レベルの均一化を図る取組みを行われたそうです。

まず、集合研修による財務の基礎知識の確認から始められたとのこと。これは、やがて自主的な勉強会に発展し、それぞれ社員同士で得意とする分野、苦手な分野をお互いに教えあうという相乗効果が生まれたとのこと。

ただし、検定試験合格のためには、単に知識面だけでなく多少の受験テクニックも必要であると判断して、試験1カ月前には、債権与信管理部主導で模擬テストを行い、出題頻度の高い項目チェックや難易度の高い問題のチェックをされたとのこと。

これにより、すでに高いレベルで財務知識を習得されている社員の方も、改めて受験のための対策を立てることができ、高い合格率につながったと分析されていました。

## ●「財務3級」の全員合格を目指す

今回合格された方は、来年3月の「財務3級」に向けて、対応コースである通信講座「財務基礎コース」の受講をすでに始めていらっしゃるようです。来年3月受験では準備期間として短すぎるとの声もあったようですが、「財務4級」で確認した知識と学習の意欲をそのまま維持したいとの考えから決められたとのこと。

また今回、同じ合格となった方でも、内容を理解した上での合格なのか、単に合格のために学習したのかは、より上級の「財務3級」受験によって明らかになるのではとのお考えもあるようです。残念ながら不合格となった方は、来年6月の4級受験が義務づけられています。

最終的には、全員が「財務3級」を合格し、より一層与信判断にその能力を活かすことが目的であるとのこと。

## ●新しい社内風土の芽生え

トヨタレンタリース愛知では、検定試験合格に対し、とくに昇進・昇格の参考とするような仕組みは今のところありません。しかし、検定試験を受けたことにより、知識習得だけでなく、別のよい影響が生まれたとお話されていました。それは、学習するという習慣付け・社内風土の芽生えであるとのこと。

今回は財務知識の習得・確認でしたが、今後は労務関係・内部統制関係等についても、学習向上の重要性があることを職員に意識づけることができたことと喜ばれていました。

また、人事面においても、これまでの評価に加え、受講成績・試験結果という新しいデータが加わったことにより、人材の発掘・適材適所の配属等において有用な資料となったようです。

この取組みは、まだ始まったばかりですが、この受験を機に、現場での教育、取引先の選別等、様々な過程において、より良い体制を確立していきたいとお話されていました。

(お忙しいなか、取材に真摯にご対応くださいました入山部長、木下さんに心から感謝申し上げます)



▲債権与信管理部 入山高弘氏 木下克美氏